

# 「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター

執筆担当：斎藤登美夫



◆◆◆ No.0818 ◆◆◆

24/12/04

## 【 経験則からは小動き多い 12 月相場、果たして今年は!? 】

先日終了した 11 月相場の変動は 7.29 円(149.47-156.76 円)。決して小動きではなかったが、以前レポートしたように、7-10 月という直近 4 カ月の月間平均変動が約 10 円を記録していたことからすると、若干の物足りなさが残る結果だった。

さて、そんな 11 月相場を受け、足もとの 12 月相場は果たしてどう動くのだろうか。恒例となっている過去の経験則を参考にすると、12 月は「小動きが多い」のだが果たして今年は如何に!?

### ◎「一方向へ動く」ことも少なくない、ドル安方向なら 145 円割れも!?

まずは「過去の経験則」をもとにした、12 月相場の戦績を振り返ってみると、1990 年以降昨年まで過去 34 年間の戦績は勝率 18 勝 16 敗となっていた。ほぼ互角の結果と言ってよいだろう。

先月にも軽く振れた話だが、12 月は四半期末に当たるということで、いわゆるリパリエーション、海外勢による本国への資金回避の動きなどを背景に「年末に向けてドル高有利」ーの話が取り沙汰されることが少なくない。しかし前述したように、経験則からすると必ずしもそうとは言えないようだ。

そんな 12 月相場について、別に「特徴」がないか調べてみたところ、2 つほど興味深い事象が判明した。順を追って説明すると、ひとつは「値動きそのものはさほど大きくない」ということ。年間を通してあまり動かず、値幅の乏しい月になることも多い。

とくに近年はその傾向が強い。たとえば 2019 年の月間変動は 1.30 円で年間変動幅 12 位、2020 年は同 1.87 円で同じく年間変動幅 12 位ーと 2 年連続で年間最下位を記録していた。リード部分で取り上げたように、7-10 月という直近 4 カ月の月間平均変動が約 10 円を記録していたものが、先月の変動は 7.29 円と若干相場が「落ち着き」を取り戻しつつある感も見られる。ヒョットすると足もと 12 月も、やや落ち着いた値動きにとどまる可能性を否定できないのかもしれない。

また 12 月相場のもうひとつの特徴としては、乏しい値動きなりに「一方向に偏った値動きを辿り易い」ということも意外に多く観測されている。これは経験則から見てわずかに有利なドル高ではなく、逆のドル安方向へ動いても、おおむねそうした傾向がうかがえていた。

幾つか例を挙げると、昨 2023 年や 2020 年の 12 月は、経験則的に有利なドル高とは逆方向であるドル安方向へと動いたのだが、その値動きはおおむね「月初高の月末安」。月間を通じて緩やかな右肩下がりなたどっている。逆に、月間を通し「ドル高・円安」方向に動いた 2021 年も、形としては「月初安・月末高」の様相だった。ちなみに、過去 2 年は 11 月と 12 月相場が同じ方向へと動いているだけに、今年も同様の展開、つまり 12 月が 11 月と同じドル安進行の値動きをたどるとするならば、月末に掛けて 145 円割れを記録することになっても不思議はないだろう。

一方、過去のニュースを調べた場合、12 月は金融それも「為替」に直結して重要な事件が起こることが多いようだ。幾つか例を挙げると、「日本が金本位制を停止(1931 年)」「スミソニアン合意(1971 年)」「豪ドルが変動相場制へ移行(1983 年)」「日経平均株価が史上最高値 38915.87 円をつける(1989 年)」「韓国が完全変動相場制へ移行(1997 年)」ーなどとなる。

また、一年の総決算にあたることもあってか「日債銀が経営破綻(1998 年)」のような大手企業の経営破綻や、国内を中心とした政治的なイザコザも少なくない。

ーなどと執筆していた矢先、「韓国で戒厳令が発令」という驚きのニュースが飛び込んできた。韓国政治情勢が不安定になっている、という話は 11 月 20 日付の当レターで報じたばかりだが、さすがに戒厳令の発令は耳を疑うもので、「まさか」という状況だ。

そののち戒厳令は解除されたが、日経新聞が「韓国ウォンが一時 2 年ぶり安値、戒厳解除後も警戒解けず」と報じたほか、4 日の株式市場も取り敢えず通常通りオープンしたもののスタートは 2% 安となっている。引き続き状況をしっかりと見極めたい。

なお、先の「政治的イザコザ」を日本の状況と照らし合わせた場合、「衆院が『黒い霧』解散(1966 年)」が

もっとも有名な出来事なのだが、もうひとつ興味深いのは 2022 年、2023 年と直近は 2 年連続で 12 月の日本政局が「鬼門」を迎えていることだろう。

ごく簡単に振り返ると、2022 年の 12 月は「政治とカネ」をめぐる問題で、自民党の藺浦議員がまず辞職。そして秋葉復興相の事実上の更迭、水田政務官の交代――と自民党で連日のようなゴタゴタが発生し、岸田政権(当時)の屋台骨が大きく揺らぐキッカケとなった。また昨 2023 年はと言うと、いま現在まで続く自民党の安倍派を中心とした「パーティー券収入不記載疑惑」が最初に発覚。「東京地検特捜部が松野前官房長官、世耕前自民党参院幹事長から任意で事情聴取」――などが起こっている。

「歴史は繰り返す」――とは、ローマの歴史家ルーフスが言った言葉とされるが、様々な日本の政治絡みのニュースなどをみると「ヒョッとすると 3 年連続 12 月の政治情勢は予断を許さない」――という認識に囚われるのは果たして筆者だけの感覚なのだろうか。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



FX-newsletter